

授業科目 評価学演習 (4 日常生活活動)

【担当教員名】 小林 量作	対象学年	2	対象学科	理学
	開講時期	後期 (後半)	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	60

【<概要>又は<一般目標 : G I O >】

前期で学習した日常生活活動 (ADL) の知識を基に、動作方法、介助方法、機器・用具の使い方を体験し習得する。また、提示された事例について ADL プログラムを立案する。

【<学習目標>又は<行動目標 : S B O >】

1. ADL の聴取法を習得する。
2. 起居動作の指導方法を習得する。
3. 歩行、階段昇降、歩行補助具の使い方を習得する。
4. 移乗動作介助法を習得する。
5. 車いす操作法、介助法を習得する。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	ADL 聴取の実際 : 患者役と PT 役で相互に聞き取りを行う	1	小林
2	寝返り、起座、 : 寝返り、片肘支持、起座 (片麻痺想定、脊髄損傷想定)	2	小林
3	臥位移動、床上移動 : 臥位移動 (左右・頭足方向)、いざり、四這位など	2	小林
4	起立、歩行 : 起立 (椅子から、床から)、立位保持、歩行	3	小林
5	杖歩行、階段昇降 : 杖歩行、歩行様式、階段昇降様式) (1 本杖、松葉杖など)	3	小林
6	移乗動作 : 移乗動作の介助	4	小林
7	車いす操作・介助 : 車いす操作、車いす介助、車いすリフト	5	小林

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	日常生活活動学・生活環境学 (第2版)	鶴見隆正編	医学書院	2005
参考書	日常生活活動 (動作) - 評価と訓練の実際 -	土田弘吉・他編	医歯薬出版	1992年
	日常生活活動 (ADL)	橋本 隆・他編	神陵文庫	1998年
その他の資料	授業毎に資料配付			

評価方法】 実技試験、期末試験 (筆記) その他	【履修上の留意点】 毎回、実技できる服装で出席すること。
--------------------------------	---------------------------------